

## カンキツ「豊福早生」、「肥のあけぼの」高接ぎ樹の ビーエー液剤による早期収量増大技術

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

担当者：坂本 等・磯部 暁

### 研究のねらい

「豊福早生」、「肥のあけぼの」の早期収量増大のためには、早期に枝梢の発生数を増加させる必要があることから、高接ぎ樹に対して結果母枝の増大を目的としたビーエー液剤の利用を検討した。

### 研究の成果

- 1 高接初年日の7月24日に春枝を摘心後、8月1日にビーエー液剤(ベンジルアミノプリン3%含有)200倍液を散布した結果、「豊福早生」、「肥のあけぼの」ともに夏枝発生本数は多くなり、平均長は短くなった。
- 2 ビーエー液剤散布後の2年目は、ほとんど着花がみられなかったが、3年目には多くの着花が認められた。着花の多い結果母枝は発生角度が水平から水平以下のものであった。
- 3 「豊福早生」はビーエー液剤の散布により、樹容積が大きくなり、1樹当たりの収穫量も多くなった。「肥のあけぼの」はビーエー液剤の散布により樹容積は変わらなかったものの単位容積当たりの収穫量が多くなった。
- 4 ビーエー液剤散布樹は、新梢発生が促進された結果、樹冠内の枝数の増加により「豊福早生」、「肥のあけぼの」ともに樹相が良くなり、品質は維持された。

### 普及上の留意点

- 1 接ぎ木初年日の摘心は7月下旬に行い、その後1週間以内にビーエー液剤を散布し、3年目より結果させる。
- 2 ビーエー液剤は樹体内の移行が少ないため、枝梢発生を促す部位に散布する必要がある。
- 3 樹勢の健全な園地で行う。

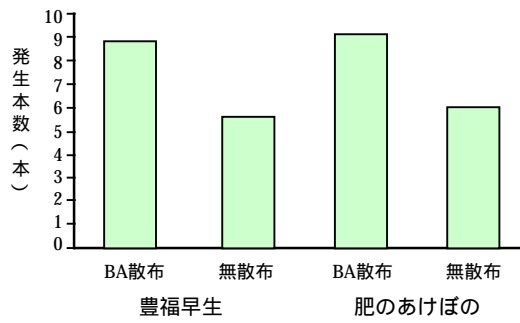


図1 ビーエー剤散布と夏枝発生本数

(単位: 春枝 1 本当たり)

注) BA 散布 ビーエー液剤散布

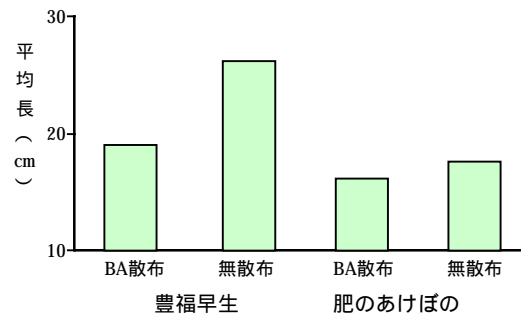


図2 ビーエー剤散布と夏枝の長さ

表1 結果母枝の発生角度別着花状況 (ビーエー液剤散布後3年目)

処 理 区	結果母枝			着花数	新梢数
	発生角度	長さ	節数		
豊福早生 (ビーエー液剤処理)	(+)	22.5 (cm)	11.9 (節)	6.5 (花)	0.9 (本)
	(0)	29.7	15.7	9.2	1.2
	(-)	25.3	13.5	10.0	0.5
豊福早生	(+)	27.7	12.3	6.0	1.2
	(0)	32.3	13.9	9.3	1.0
	(-)	32.7	13.7	9.6	2.3
肥のあけぼの (ビーエー液剤処理)	(+)	19.9	13.5	6.0	1.4
	(0)	26.0	13.8	6.5	0.8
	(-)	23.3	14.2	7.2	1.5
肥のあけぼの	(+)	20.1	11.8	3.6	1.4
	(0)	19.3	11.9	5.7	0.5
	(-)	20.0	13.0	9.0	1.0

注) 発生角度 (+) 水平以上、(0) 水平、(-) 水平以下  
着花数 1 結果母枝当たり

表2 果実品質 (ビーエー液剤散布後3年目)

品 種	平均果重	屈折計示度	クエン酸含量	色差計(a値)
豊福早生 (ビーエー液剤処理)	102.3(g)	11.3	0.90(%)	17.2
豊福早生	98.8	10.2	1.05	11.1
肥のあけぼの (ビーエー液剤処理)	106.8	11.1	0.92	23.0
肥のあけぼの	102.3	11.3	0.96	24.7

注) 「豊福早生」10月18日採取・10月18日分析  
「肥のあけぼの」10月30日採取・10月31日分析